

図22 道に埋め込まれた標識
すぐ近くに「アルベルゲ」(巡礼者宿が
あった。ログローニョの町)

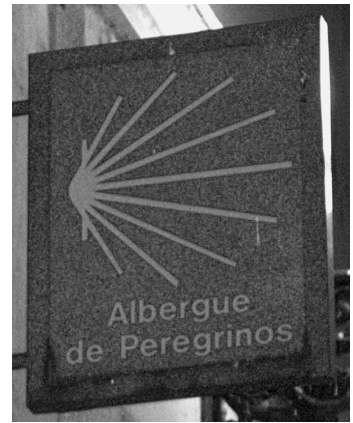


図24・25 アルベルゲの看板
ホタテ貝のデザインと「巡礼者の宿」の文字表示
(ログローニョの町)



図23 道に埋め込まれた金属製
ホタテ貝。
レオン大聖堂への道



図26 レオンの町のアルベルゲ看板



図27 ポルトマリンの民営アルベルゲの
案内看板
巡礼者のイメージがおもしろい。

以上で図の紹介を終わる。要点は3点。

- ①車道と巡礼道の区分。これは遍路道の整備を考える際大いに参考になる。特に松山市内の浄土寺から繁多寺への道の途中、県道40号線の一部は歩道すらなく、整備の必要を強く感じる部分がある。
- ②統一イメージ戦略の採用。ホタテ貝、巡礼者のイメージの意匠化の問題。四国遍路の場合は、「へんろみち保存協力会」が早くからこれに取り組んでいる。それは図28に示した。今日でもこの取組は遍路に対する貴重なかつ大きな支援となっているが、是非今後官民ならびに地域の力を結集する形で一層判りやすく、一層イメージゆたかなものに成長させてほしいものである。
- ③懇切丁寧な、かつ多様な案内。ビアフランカあたりで見た各種の案内図や標識の数々。特にルート上あるいは近辺の便益施設の所在情報は貴重である。



図28 「へんろみち保存協力会のみちしるべ」
各種(註④)